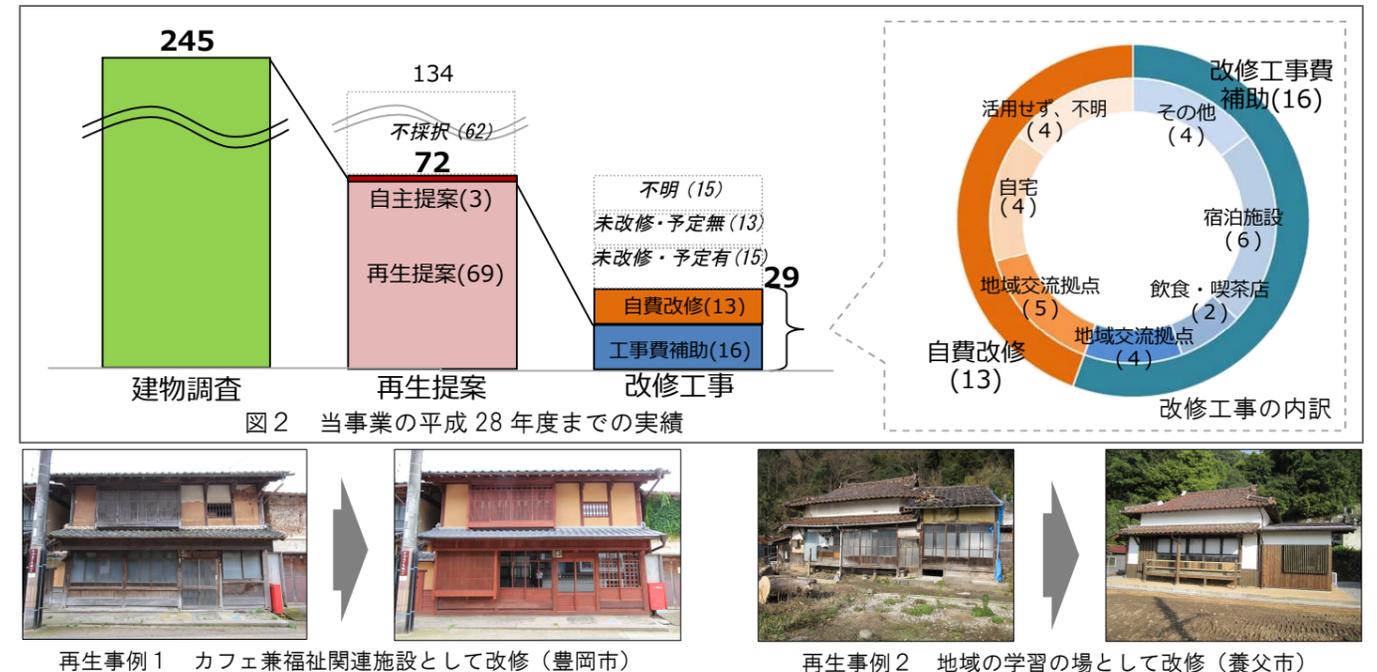
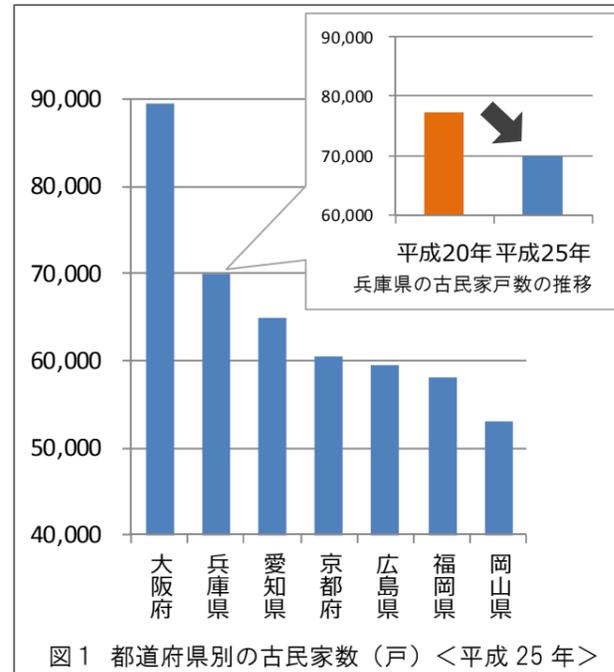


I 県内の古民家をとりまく現状と事業の実績

- ・全国で古民家の数\*が2番目に多い兵庫県でも5年間で約7500戸(9.7%)も減少(図1)
- ・10年間の当事業の実績は、建物調査245件、再生提案72件、改修工事29件(図2)
- ・建物調査実施案件のうち約3割が再生提案を、再生提案案件のうち約4割が改修工事を実施(図2)
- ・自費改修でも約3割が改修後は地域の交流拠点として活用されている(図2)
- ・古民家を貴重な歴史的資源としてまちづくりに活用(篠山市など)



\*「平成25年住宅・土地統計調査」における昭和25年以前に建築された木造及び防火木造の建築物を古民家とした

II 古民家再生促進支援事業 アンケート・ヒアリングの結果

1 アンケートの概要

	アンケート	ヒアリング
対象	①建物調査のみ行った申請者121人 ②再生提案まで行い、県の改修費補助を利用しなかった申請者57人	③改修工事費補助全15件の申請者
方法	対象者に郵送し、FAXや簡易申請システムを利用した回答	現地に行き聞き取り調査
期間	平成29年8月18日～9月1日	平成29年6月～8月
回答率/有効回答数	①34%/42 ②28%/16	

2 評価

- (1) 建物調査、再生提案とも満足度は高い(図3、図4)
- (2) 人とのふれあいや観光客との交流、地域への好影響といった改修後のメリット(表1)
- (3) 改修工事を経て生まれた職人のプロ意識(表1)

3 意見

- (1) 建物調査を受けた古民家所有者のうち、約6割が経済的な理由などで再生提案の申請を断念(アンケートより)  
改修工事費補助の実績の地域間のばらつきには市町による補助制度の有無が影響(アンケートより)
- (2) 再生提案で、施設運営についてアドバイスができる専門家派遣を希望(アンケートより)
- (3) 左官・大工職人の減少傾向から若手の育成を希望(表2)  
(ヒアリングより)
- (4) 行政の広報誌への掲載等古民家改修後の情報発信が必要  
(ヒアリングより)

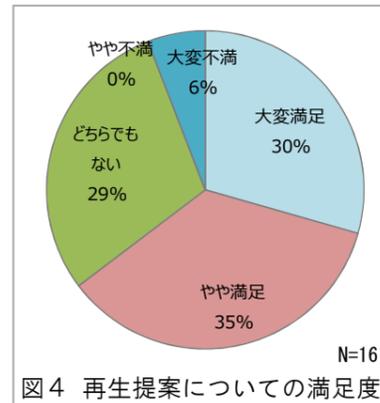
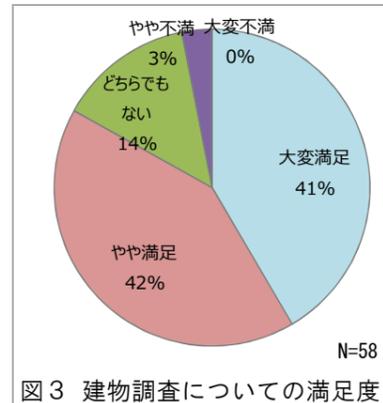


表1 古民家を改修してよかったことは? (N=15(複数回答有))

様々な人との出会いがあった	5人
職人意識の変化があった	5人
地域にとってよい影響となった	4人
建物の価値を再発見できた	3人
観光客との交流ができた	3人

表2 兵庫県の大工・左官の減少

	平成12年	平成22年	減少率
大工	23,946	12,780	▲46.6%
左官	6,354	3,190	▲49.8%

※出典：平成12～22年国勢調査抽出詳細集計(総務省統計局)

III 課題(アンケート・ヒアリングの結果から)

- 1 改修資金の調達と補助制度のあり方
- 2 改修後の持続的な施設運営
- 3 古民家に携わる職人の育成
- 4 持続的な情報発信のあり方

IV 施策の方向性

1 支援制度・資金調達方法の拡充

- (1) 補助制度の拡充(複数年度への補助など)
- (2) 市町補助制度の充実
- (3) 新たな資金調達方法の普及(クラウドファンディングなど)

2 多様な利活用と施設運営

- (1) 既存制度の周知のための広報活動
- (2) 安定した施設運営のためのフィジビリティ調査の実施

3 古民家再生の担い手育成

- (1) 専門家や職人向けの研修会の定期的な開催
- (2) 古民家再生の各種団体との連携による人材育成

4 古民家再生に関する情報発信

- (1) 事例集の作成及び普及啓発
- (2) 事例発表会・シンポジウム等の開催

